



慶應義塾大学

〒108-8345 東京都港区三田2-15-45
入学センター TEL 03-6427-1566
https://www.keio.ac.jp/

慶應義塾大学

Keio University

(1) 独立自尊

何者にも屈せず、誰にもおごらず、慣習や常識などにとらわれず、自分の良識と信念に基づいて考え行動する。同時に、他人もまた独立した個人として尊重する。福澤は、そのような「独立自尊」の人を育むことを学問の狙いとした。それは彼が、「一身独立して一国独立す」と「学問のすゝめ」に記したように、人をつくれれば自ずと国も成熟していく、という考え方に通じている。

■ 実学

福澤は「実学」に「サイヤンス」とフリガナをふった。「実学」とは、単なる実用の学ではなく「科学」のこと。問題を発見し、仮説を立てて検証し、結論を導いていくという、「自分の頭で考える」プロセスに通じる「実証科学」のことを意味している。まだ誰も答えを見つけていないテーマを設定し、「自分の頭で考える」力を養うことは、慶應義塾における学びの柱である。

■ 半学半教

学ぶことは教えることに通じ、教えることは学ぶことに通じる。慶應義塾では学ぶ者と教える者を区別せず、教員と学生、先輩と後輩などの立場を越え、学び合い教え合いともに成長する「半学半教」の精神を大切にしている。

■ 人間交際

慶應義塾には「人間（じんかん）交際（こうさい）」を大切にしている伝統が息づいている。それは、「あらゆる学問は、人と人との交流のためにある。人と人との交流の中で、総合的な人間力が培われる」という福澤の考え方に基づくものである。忘れられない言葉、かけがえのない体験、深まる信頼関係など、人の心を動かすのは、人である。「人間交際」は、心を大きく豊かに育むための学びでもある。

■ 社中協力

「社中」とは、学生・教職員・卒業生など、慶應義塾に関係する人たちの総称。目的を共有する者の集まりという意味が込められた「社中」の協力体制は、パブリックスクール（義塾）として150年以上にわたり成長を重ねてきた原動力である。その精神は、学びの志を経済面から支える奨学制度や、さまざまな分野が柔軟に連携する総合大学としての研究環境にも活かされている。

PICK UP 三田キャンパス・慶應義塾図書館旧館



図書館旧館は創立50年記念事業の一環として1912年に竣工し、1969年には国の重要文化財に指定されました。外壁上部に高く掲げられた時計の文字盤には、「TEMPUS FUGIT」（「時は過ぎゆく」の意のラテン語）が刻まれています。また、入口ホールの階段上を飾る「Calamvs Gladio Fortior」（「ペンは剣よりも強し」の意のラテン語）が記されたステンドグラスは、権力に屈しない慶應義塾の精神を表しています。

学

02

一般選抜出願前に申請し、候補者認定が受けられる「学問のすゝめ奨学金」

問のすゝめ奨学金」は、慶應義塾大学の学部第1学年に入学を強く希望する日本国内（東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県を除く）の高等学校等の出身者で、人物および学業成績が優秀であるにもかかわらず、経済的理由により本学への入学に困難を来している受験生に対し、経済支援を行うことを目的とします。奨学金の返済は不要です。選考については、一般選抜出願前に申請を受け付け、候補者（500名以上）を決定します。その後、一般選抜に合格し、入学後に所定の手続きを行うことで奨学生として採用されます。また、6つの地域ブロックごとに選考を行うことで、地域の偏りをなくしている点も大きな特徴です。毎年の審査・申請により2年目以降も継続受給が可能です。

奨学金額は60万円／年（ただし医学部は90万円／年、薬学部は80万円／年）で、初年度は右記の金額に入学金相当額（20万円）を加算します。また、継続審査時に前年度までの学業成績が優秀と認められた者は、2年目以降80万円／年（ただし医学部は150万円／年、薬学部は120万円／年）に増額されます。

人

03

世界最高峰のA-1キャンパス実現へ

工知能（A-1）の急速な進展により、教育や研究、社会のあり方が大きな転換期を迎えています。こうした時代において、大学はA-1を単に効率化のツールとして活用するだけでなく、人とA-1が協働し、新たな知を創造することが求められています。

慶應義塾はOpen and Motion、マイクロソフトなど、世界のA-1トップ企業との包括的連携を機に、これからの数年間で、「世界最高峰のA-1キャンパス」の実現を目指します。これは、最先端のA-1研究を推進することにも、学生や研究者が日常的にA-1と向き合い、挑戦し、学び合う環境を整える取り組みです。慶應義塾は、A-1時代における「独立自尊」を体現する人材を育成するため、文理を越えた教育と研究、そして多様な人々との協働を通じて、新しい知の創造に挑戦します。

A-1と共存しながらも、人間の主体性と知性をさらに高め、その挑戦の場として、慶應義塾は「A-1キャンパス構想」を推進していきます。

「智徳」と「気品」を兼ね備えた、先導者としての理想の追求



いとうこうへい
伊藤公平塾長

1989年慶應義塾大学理工学部計測工学科卒業。94年カリフォルニア大学パークレイ校（Ph.D.）。慶應義塾大学教授、理工学部長等を経て2021年より現職。

SUMMARY

慶應義塾は1858（安政5）年に福澤諭吉によって創立された、日本最古の私立総合学塾です。福澤が掲げた目的は、「以て全社会の先導者たらんことを欲するものなり」という言葉に集約されています。慶應義塾とは、この目的を達成するための塾生（学生）と教職員と塾員（卒業生）の集まりです。自分で考え、人間の尊厳を重んじることで他人の考えにもしっかりと耳を傾け、尊重することができる「独立自尊⁽¹⁾」の人の集まりです。さまざまな考え方を持つ人の集まりでありながら、互いを尊重するので真の友情が芽生え、協調的に高め合い、困ったときには助け合うことができます。仲間の大切さを知り、自分の存在意義を実感しながら成長できるのが慶應義塾大学です。

慶

01

「人生の好循環」が始まる学塾

慶義塾では塾生自らが、「①学問」を通して社会や科学の真髄に迫り、「②スポーツ・文化・芸術・社会・福祉活動などの課外活動」を通して人間力を身に付けています。それだけでなく、多種多様な「③国際プログラム」を通じて活動の場を世界に広げています。

①学問について

慶應義塾には、それぞれの学部が設置する専門教育科目、外国語科目などに加えて、学部を越えて履修が可能な総合教育科目や自由科目、研究所・センターが設置する講座、課外学習プログラムなど、形式も内容も多岐にわたる学びの環境が整備されています。

②課外活動について

公認団体だけでなく文化・芸術、スポーツなどさまざまな分野にわたる400近い団体があります。それらは体育会や文化団体連盟、独立団体などさまざまです。教室外での課外学習は先輩や塾員との交流の中で社会的な経験を積み、新しい人間関係を作り上げる能力を養う上で大切な機会です。

③国際プログラムについて

幅広い選択肢をそろえています。例えば、海外の協定校と慶應義塾の両方で学び、修了時に両方の学位を取得できるダブルディグリープログラムから、夏季・春季休校中に開催される手軽なプログラムまであり、レベル、期間、内容など、目的に合わせて選択できます。また、学内では820を超える外国語による授業（語学を除く）を実施しており、国内にいなから留学と同じように英語で専門知識を学ぶことができます。

このような充実した教育により、塾生は総合力や人間力を備え、社会に不可欠な人材に成長します。その結果、慶應義塾は「最も就職に強い大学」のひとつとして世間から評価されています。就職支援も手厚く行っており、さまざまなテーマで行う年間100回程度のガイダンスや、進路全般に関わる相談のほか、OB・OG訪問のためのコンタクト先を検索・閲覧し、自分の関心のある分野・企業の塾員と直接話ができるのは、慶應義塾ならではの強みです。

そのようにして羽ばたいていった塾員はさまざまな立場で社会を先導しており、そのネットワークは極めて強固で、世界中に広がっています。大企業に加えて、これからの社会を創る新進鋭の企業や非営利団体等の創設や発展においても大活躍しています。塾生は、在学中はもちろんのこと、卒業後も生涯を通じて、塾員のネットワークから多くのチャンスや出会いに恵まれます。

塾生にとっての慶應義塾とは、生涯の友に出会う場であり、世界を股にかけて活躍する、これからの「人生の好循環」の始まりです。





慶應義塾大学 医学部

Keio University School of Medicine

基礎臨床一体型医学と医療の実現へ「フィジシャン・サイエンティスト」を育成

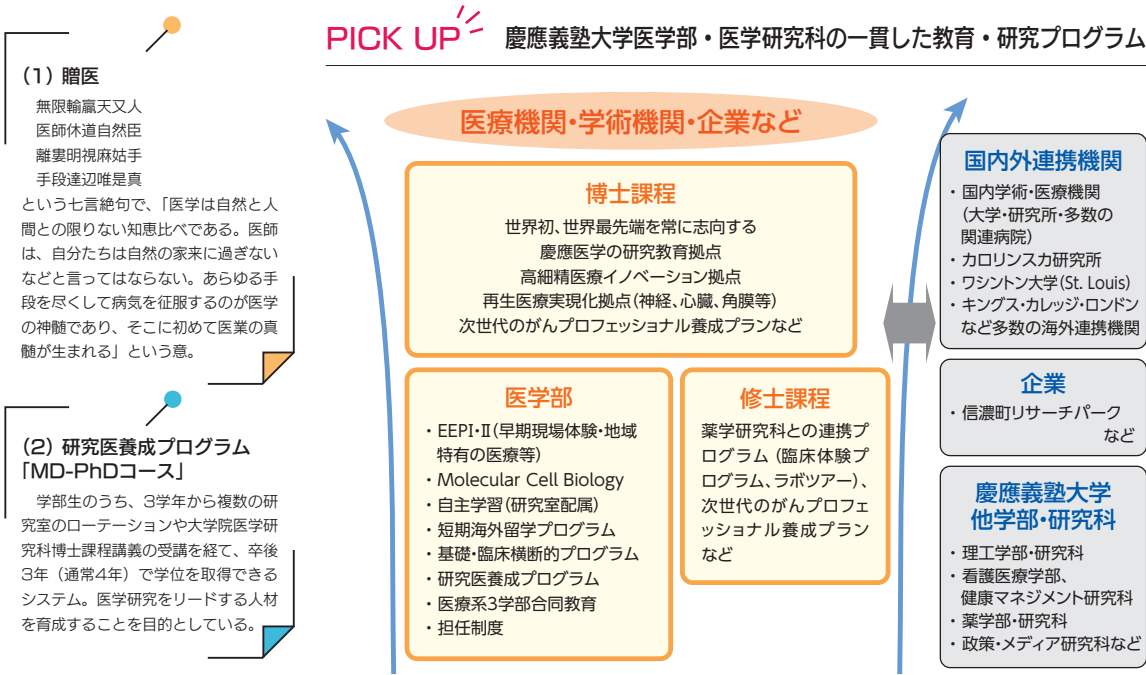


武林亨医学部長
1989年慶應義塾大学医学部卒業。93年同大学院医学研究科博士課程、94年ハーバード大学公衆衛生大学院修士課程修了。2005年慶應義塾大学教授。副医学部長を経て25年より現職。

SUMMARY

2017年に開設100年を迎えた慶應義塾大学医学部は、1917（大正6）年に世界的な細菌学者として知られた北里柴三郎を初代学部長として発足しました。その建学の精神は、現在の医学部の理念である「基礎臨床一体型医学・医療の実現」として受け継がれています。

2022年には世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）に私立大学で初めて採択されました。現代社会のニーズに応える医療の実現と、世界をリードする「フィジシャン・サイエンティスト」の育成に努めています。



01 慶 医学部創設の理念を継承し「基礎と臨床一体の医療」を目指す

慶應義塾大学医学部は「基礎臨床一体型の医学・医療の実現」を理念に掲げ、フィジシャン・サイエンティストの育成を目標としています。その理念は、1917年の医学部創設時にまで遡ります。福澤諭吉先生は北里柴三郎先生を招聘した際、「贈医」と題する七言絶句にその想いを託しました。これを受けて北里先生は医学部発足の挨拶で、「基礎も臨床も境目なく診療科」との障壁も外して、すべて医療に携わる人が一族のごとく集まって、こぞで医学の研鑽に励むことを特色にしたい」と述べました。慶應医学が唱える「基礎臨床一体型の医学・医療の実現」は、この初代学部長・病院長の北里先生の教えを理念として受け継いでいるものです。この理念のもと育成を目指すフィジシャン・サイエンティストとは、「研究能力を備えた医師」のことであり、自分と問題を提起し、解決を見出すことのできる医師を指しています。

02 現 学生の国際活動、研究活動を潤沢な奨学金でサポート

在、慶應義塾大学医学部では、学生の国際活動、研究活動を奨励しています。「医学部人材育成特別事業奨学金」や「北里柴三郎人材育成基金奨学金」を用意し、学生の国際活動や研究活動に潤沢な給付型の奨学金でサポートしています。3年生の自主学習を4カ月間、海外研究施設で行う学生や、5年生の短期海外留学（臨床）において、海外医療機関で1カ月間の臨床実習を行う学生の旅費や滞在費をサポートしています。また、医学部では研究医養成プログラム「M

03 医 医学概論で1年から医学に触れ、学部生から研究にも打ち込む

学概論や独自の自主学習で学生時代から研究に打ち込む慶應義塾大学医学部の教育は、将来の世界の医学と医療を作り出すことのできる創造的な医師・研究者の育成を最大の特徴としています。第1学年では、信濃町キャンパスで開講される医学・医療の入門編の講義として医学概論を開講。トップランナーから最新の医学・医療を学び、医学部卒業後のキャリアについても考えます。講義のほかに1カ月に一度、信濃町の専門科目教員とのゼミナールを行います。第3学年では「自主学習」が組まれ、学生は希望する研究室でマンツーマンによる指導を受けます。また、3年生の7月、9月、10月を研究期間として確保しており、夏季休暇を含めると4カ月間、研究に没頭することができます。さらに、学内の研究室のみならず海外や国内の学外施設での研究留学も可能で、2026年度は、沖縄科学技術大学院大学（以下、OIST）に6名、ジョンス・ホプキンス大学に3名の学生が研究留学しています。このプログラムは学生が自ら研究成果を挙げ、いくつもの学生の中には、その研究成果を国内学会や国際学会で発表したり、海外の英文誌に発表したりする学生もいます。

04 医 関連病院との密接な繋がりで充実した卒前卒後教育

学教育は医学部の6年間で終わるものではなく、卒業後の10年間の教育を含めた、トータル16年間であると考えてられています。慶應義塾大学医学部では、最先端の研究・教育を行う卒後教育10年間を含めた、一貫した医学教育プログラムを導入しています。また、慶應義塾大学医学部には関連病院が約100、教育中核病院が35ありますが、卒前卒後教育を通して、これらの病院と密接に繋がっています。関連病院と大学病院とを行き来しながら、医師としての技術を修得できる教育システムは、慶應義塾大学医学部だからこそ提供できるものです。こうしたプログラムや2022年に採択されたWPIにより、社会のニーズに応える世界レベルの研究が行われています。

05 海 活発な国際交流で広がる学び 研究機関との連携も強化

外留学をはじめとする国際交流活動も活発で、短期海外留学プログラムでは第5学年の学生を海外協定大学の病院に約1カ月間派遣し、その病院実習を単位認定しています。2026年度は約60%の学生が参加しています。協定大学は米国、スウェーデン、英国、アイルランド、ドイツ、フランス、オーストラリア、オランダ、ブラジル、オーストラリア、中国、台湾、韓国、シンガポール、タイ等の国・地域にわたり、約20大学に及んでいます。近年では、OISTと連携し、前述の自主学習先とするほか、第2学年を主な対象とした

01 慶 医学部創設の理念を継承し「基礎と臨床一体の医療」を目指す

慶應義塾大学医学部は「基礎臨床一体型の医学・医療の実現」を理念に掲げ、フィジシャン・サイエンティストの育成を目標としています。その理念は、1917年の医学部創設時にまで遡ります。福澤諭吉先生は北里柴三郎先生を招聘した際、「贈医」と題する七言絶句にその想いを託しました。これを受けて北里先生は医学部発足の挨拶で、「基礎も臨床も境目なく診療科」との障壁も外して、すべて医療に携わる人が一族のごとく集まって、こぞで医学の研鑽に励むことを特色にしたい」と述べました。慶應医学が唱える「基礎臨床一体型の医学・医療の実現」は、この初代学部長・病院長の北里先生の教えを理念として受け継いでいるものです。この理念のもと育成を目指すフィジシャン・サイエンティストとは、「研究能力を備えた医師」のことであり、自分と問題を提起し、解決を見出すことのできる医師を指しています。

02 現 学生の国際活動、研究活動を潤沢な奨学金でサポート

在、慶應義塾大学医学部では、学生の国際活動、研究活動を奨励しています。「医学部人材育成特別事業奨学金」や「北里柴三郎人材育成基金奨学金」を用意し、学生の国際活動や研究活動に潤沢な給付型の奨学金でサポートしています。3年生の自主学習を4カ月間、海外研究施設で行う学生や、5年生の短期海外留学（臨床）において、海外医療機関で1カ月間の臨床実習を行う学生の旅費や滞在費をサポートしています。また、医学部では研究医養成プログラム「M

03 医 医学概論で1年から医学に触れ、学部生から研究にも打ち込む

学概論や独自の自主学習で学生時代から研究に打ち込む慶應義塾大学医学部の教育は、将来の世界の医学と医療を作り出すことのできる創造的な医師・研究者の育成を最大の特徴としています。第1学年では、信濃町キャンパスで開講される医学・医療の入門編の講義として医学概論を開講。トップランナーから最新の医学・医療を学び、医学部卒業後のキャリアについても考えます。講義のほかに1カ月に一度、信濃町の専門科目教員とのゼミナールを行います。第3学年では「自主学習」が組まれ、学生は希望する研究室でマンツーマンによる指導を受けます。また、3年生の7月、9月、10月を研究期間として確保しており、夏季休暇を含めると4カ月間、研究に没頭することができます。さらに、学内の研究室のみならず海外や国内の学外施設での研究留学も可能で、2026年度は、沖縄科学技術大学院大学（以下、OIST）に6名、ジョンス・ホプキンス大学に3名の学生が研究留学しています。このプログラムは学生が自ら研究成果を挙げ、いくつもの学生の中には、その研究成果を国内学会や国際学会で発表したり、海外の英文誌に発表したりする学生もいます。

04 医 関連病院との密接な繋がりで充実した卒前卒後教育

学教育は医学部の6年間で終わるものではなく、卒業後の10年間の教育を含めた、トータル16年間であると考えてられています。慶應義塾大学医学部では、最先端の研究・教育を行う卒後教育10年間を含めた、一貫した医学教育プログラムを導入しています。また、慶應義塾大学医学部には関連病院が約100、教育中核病院が35ありますが、卒前卒後教育を通して、これらの病院と密接に繋がっています。関連病院と大学病院とを行き来しながら、医師としての技術を修得できる教育システムは、慶應義塾大学医学部だからこそ提供できるものです。こうしたプログラムや2022年に採択されたWPIにより、社会のニーズに応える世界レベルの研究が行われています。

05 海 活発な国際交流で広がる学び 研究機関との連携も強化

外留学をはじめとする国際交流活動も活発で、短期海外留学プログラムでは第5学年の学生を海外協定大学の病院に約1カ月間派遣し、その病院実習を単位認定しています。2026年度は約60%の学生が参加しています。協定大学は米国、スウェーデン、英国、アイルランド、ドイツ、フランス、オーストラリア、オランダ、ブラジル、オーストラリア、中国、台湾、韓国、シンガポール、タイ等の国・地域にわたり、約20大学に及んでいます。近年では、OISTと連携し、前述の自主学習先とするほか、第2学年を主な対象とした